

構造家・斎藤公男先生と巡る

下関市体育館 見学会

2023.3.11  13:30-16:30
(受付13:00～)

竣工後60年
2024年
解体予定

会場

下関市体育館 メインアリーナ

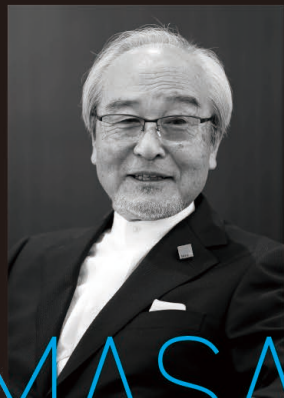
山口県下関市向洋町1-12-1

SHIMONOSEKI
GYMNASIUM
TOUR

[主催] (一社)日本建築学会 中国支部

[協力] (一社)山口県 建築士会、NPO法人まちのよそおいネットワーク&山口近代建築研究会、下関市の建築文化を考える会

[後援] (一社)山口県 建築士事務所協会、(一社)日本建築家協会中国支部



講演：『「下関」からのメッセージ ～時代をこえた空間構造のデザイン～』

斎藤 公男 1938年 群馬県前橋市生まれ

1961年日本大学理工学部建築学科卒業後、日本大学理工学部建築学科助教授を経て 1991～2008年日本大学理工学部建築学教授／2008年日本大学名誉教授／2007年第50代日本建築学会会長／工学博士、一級建築士

【主な受賞】日本建築学会賞、松井源吾賞、E・トロハ賞(2009年)、日本建築学会大賞(2018年)、瑞宝小綬章(2018年)

【主な著作】空間構造物語(2003年、彰国社)、新しい建築のみかた(2014年、エクスナレッジ)ほか多数

※構造家として全国に多数の設計実績があり、山口県においては、「下関市地方卸売市場唐戸市場」2001年、「山口きらら博記念公園多目的ドーム」2001年などを手掛けておられます。

MASAO SAITO



SHIMONOSEKI GYMNASIUM

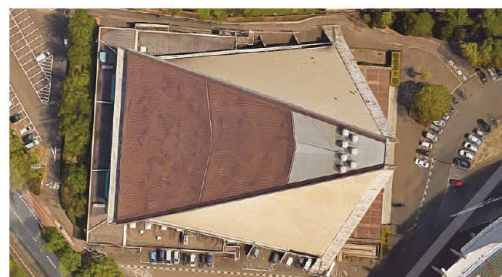
1963年、構造家・坪井善勝氏自らの設計で建設された下関体育館は、今年で竣工60周年を迎えますが、現在工事中の新総合体育館完成後、解体されることが決まっています。

私たちは、その解体の前に、この体育館の歴史的・文化的価値、また果たしてきた役割を、60周年にあたり改めて整理、記録しておくべきと考えています。このため、この度市民向け見学会を企画したところ、若い頃この体育館の設計・工事監理に深く関わられた構造家・斎藤公男氏をお招きすることができました。

斎藤先生にとっては構造家としての出発点となったこの体育館で、「下関」からのメッセージ～時代をこえた空間構造のデザイン」の講演もいただきます。今なお斬新さを保ち、訪れる者に空間的感動を与えるこのこのモダニズム建築が地域に残したものは何か、私たちはこの建物から何を継承すべきか、など改めて市民の皆さんと共に考えていきたいと思います。

プログラム 2023.3.11(土) 13:30-16:30 (受付13:00～)

- 13:00～ | 受付開始
- 13:35-13:50 | ドローン映像公開 及び 2019シンポ概要報告
- 13:50-14:50 | 斎藤公男先生 講演
『「下関」からのメッセージ
～時代をこえた空間構造のデザイン～』
- 14:50-15:15 | 質疑応答
- 15:20-16:30 | 班分けした後、下関体育館の内外を見学



建物の形状は3つの屋根面によって構成されています。一つは上部屋根。頂部を少し切り取った二等辺三角形。建物前面ではスパン43m、高さ28mの合掌登り梁によって支えられ、背面はスパン43m、高さ14mの矩形ラーメン構造で終局する。それと地面との間を2つの側面屋根が繋いでいます。側面屋根は見た目、複雑な印象を持ちますが、実は一つの数式で表せる変形双曲放物面なのです。

お申込み

HP申込フォーム

<https://qr.paps.jp/VXial>

QRコード

申込フォーム



メール 氏名と市町村名を記載してください

shimoho2019@gmail.com

※会場は土足厳禁ですので、スリッパと履き物を入れるビニール袋等をご持参いただきますようお願いいたします。
※駐車場に余裕がございませんので、できるだけ乗り合わせか、公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせは、日本建築学会 中国支部 山口支所 原田まで メールでお願いします。✉ harada2982@gmail.com

〈申込締切〉
2023年
3月10日(金)
定員 100名

下関市体育館について

設計／建築 坪井善勝 共同:今泉善一 構造／坪井善勝研究室
設備／日本不燃建築研究所
施工／大成建設 階数／地上5階
建築面積／4,995㎡ 構造／鉄筋コンクリート造 鉄骨造
延床面積／6,874㎡ 工期／1962年9月～1963年8月

